

水戸医療圏活動（認知症 AR/VR 体験、障害者・高齢者体験）の報告

茨城県作業療法士会
水戸医療圏コミュニティディレクター 海野淳輝
(所属：水戸済生会総合病院)



水戸医療圏活動では水戸にある常磐大学高等学校の高校生に向けて作業療法の啓発活動、障害者・リハビリ (activity) 体験を取り組みで始め、今年で3年目を迎えます。この医療圏活動を開始してから年々高等学校からの受験者数が増加傾向とお伺いしており、この啓発活動の成果が出ていると実感しております。今年新しい試みで常磐大学高等学校の文化祭に水戸医療圏活動として平成30年6月2日(日)に参加させて頂きました。今回は、高校生と保護者に向けて作業療法の啓発活動、障害者・リハビリ (activity) 体験、各分野のリハビリスタッフが窓口となり進路先やリハビリの相談会を致しました。各施設からボランティアスタッフを募集し、水戸医療圏 CD と合わせて12名の方が参加して頂きました。活動に参加した OT の方々は自分の専門分野の垣根を越えて、交流する様子が見受けられました。またその後の仕事や医療圏活動に繋がるような、横の繋がりができたのではないかと思います。



活動内容としては、①AR/VR を使用しての認知症体験、②軍手を使用しての片麻痺の体験、片麻痺を体験しながら activity (ちぎり絵) や自助具の体験、③ビブリア (学校で使用していた教科書の展示)、④JAOT・IAOT のパンフレットや県士会で配布している DVD を使用して OT についての説明やリハビリ相談会、学校(茨城県内のみ)のパンフレットを使用し、進路先の説明会を致しました。

今回の活動では、約50～60名程度の来場者が作業療法に対して興味を持ち、ブース内に立ち寄って頂きました。来場者は保護者(40～50代)が半数以上を占めており、保護者は作業療法士の仕事内容や就職先・養成校の説明を聞き、お子様のために熱心に話を聞く姿はとても印象的でした。同活動の中で AR/VR (認知症体験) は非常に好評で、アンケート内でも7割以上の方が“良かった！またやりたい！”との回答を多数頂きました。AR/VR を体験した方から映像を通して認知症の理解ができたとの声が多数ありました。さらに認知症に対して作業療法の展開を併せて説明することで、OT の意義や理解が深まったとの意見も多かったです。AR/VR は関心を集めやすく非常に導入しやすいため、楽しみながら OT が対象とする疾患(認知症)のイメージができたのではないかと思います。

今後も作業療法を知っていただけるように啓発活動や未来の作業療法士を増やしていくため同活動を継続していきたいと思っておりますので、今後ともご協力をお願い致します。

